

ナイト プログラム

ここでは、ふれあいの村が提供する、夜にしかできない「ナイトプログラム」を紹介します。

暗間の中での非日常体験で、自己・他者・自然への再発見があることでしょう。ぜひ「ナイトプログラム」を活動に取り入れてみてください。

(1) ナイトプログラムのねらい

○感性を養うきっかけとして

明かりの少ないふれあいの村の夜に活動することにより、夜の自然を5感(観、聴、触、臭、味)を使って体感することが出来ます。自然への再発見、新発見や感動など様々な感情が湧き出てくることと思います。

○仲間との信頼関係を気づくきっかけとして

夜の闇の中で少数の仲間と過ごすことで、自分の身体面や精神面の安全を他のメンバーと支え合う場面が生まれ、そのことにより、日中より強く仲間との連帯感を感じたり、信頼関係を築くことができます。



(2) 足柄ふれあいの村のナイトプログラム

【時 間】 1時間～2間程度 (個々のプログラムによって異なります)

【活動場所】 村内または村周辺

【対 象】 小学低学年以上

【服 装】 長袖、長ズボンの着用が望ましい

【メニュー】 ◇ナイトハイク

夜のふれあいの村を個人または、グループで歩きます。夜の静けさや、神秘さを味わうとともに、グループの協調性等を育みます。

・村内コース (約40分)

…村内の散策路を使用するコースです。

・村外コース (約40分～60分)

…村内の散策路から丸太の森の前を通る外周道を使用するコースです。

◇ふくろうビパーク

森の中で「ふくろう」のようにじっとして自然の中へ身をゆだねながら、音、臭い、動物の気配等を感じたり、自己や他者との関係をふりかえることが出来ます。

◇キャンプファイヤー

火を囲んで、歌を歌ったり、踊ったり、ゲームをしたりすることで、全体の親睦が図れます。

◇キャンドルファイヤー

ろうそくの火を囲んでおこなうキャンドルファイヤーは、神聖な雰囲気が出しやすく、当日の準備も比較的簡単なので、最終夜のまとめの活動として適しています。



(3) ナイトプログラムの進め方と留意点

事前

【実施の申込み】

- ・対象に合わせたプログラムを決定し、活動計画書に記入します
- ・他団体とのプログラムの重複等を確認します

準備

【下見1】

- ・場所やコースを下見します
- ・参加者の体力や実施場所に合わせてゲームや課題の組合せを決めます

【準備】

- ・ナイトハイクやふくろうビパークの場合、地図などをコピーします
- ・その他の必要物品を準備します
- ・雨天時や強風時の対応を決めておきます

【下見2】※ナイトハイクやふくろうビパークの場合

- ・実際に実施する時間にあわせて、もう一度下見します

実施

【実施】

- ・明るい内に参加者にコースや実施場所を下見させます
- ・明るい場所で、ルールやマナーの確認をします
- ・懐中電灯の使い方を徹底します

片付け

【片付け】

- ・周辺のごみを片付けます
- ・キャンプファイヤーの場合は、燃え残りの薪の処理をします
- ・キャンドルファイヤーの場合は、床にたれたロウを剥がします

ふりかえり

【ふりかえり】

- ・体験してどう感じたかを他の参加者と意見交換します

留意点

<<ナイトハイク・ふくろうビパーク>>

- ・分岐点等のコースを間違えそうな場所や課題を設置する場所には、必ずスタッフを配置してください。
- ・野生動物等が多く生息する自然の中での活動ですので、自然への配慮として、「肝試し(怖がらせたり、そのための仕掛けをしたりする行為)」の実施は禁止としています。

<<キャンプファイヤー>>

- ・防災上、キャンプファイヤーセットにさらに薪を追加して実施することはできません。また、強風の場合は、実施を見合わせていただくことがあります。